教材事例書式

教材教具名　型はめ　○△	教科（　算数　）	

教材教具写真

教材教具の概略（ねらいと使い方）　※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

1　ねらい　　○・△の形の弁別
2　発達段階　　形・色に興味を持ち始めたころ
3　使い方
　○、もしくは△の形板を児童の前に一つずつ提示し、写真上部の型（○のおうち・△のおうち）に入れる。ただの○や△に対して関心を持ちにくい児童に対しては、キャラクターの顔の描かれたものを使用する。
　児童の実態によっては、左下の写真にあるように色のついた○・△を提示し、「自分の色（児童カラー）はどれ？」と色選びの学習も行っている。

児童生徒の反応や教材の評価　使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

　昨年度までの取り組みで、実際に形の弁別ができていても手指の操作や目と手の協応が難しく、型にはめることが困難な児童もいた。今回は板よりもやや大きいつくりの型を使用したこと、回数を重ねることで、次第にうまく入れられるようになってきた。
　当初は形板に吸盤をつけて持ち手を作っていたが、本学級の児童は持ち手をつまむよりも形板を直接持った方がはめやすい実態があったため現在はそのまま利用している。
　はじめは型はめに苦手意識のあった児童も、「まるさんかくしかく」の歌を歌い楽しい雰囲気の中で行ったことで、型を二つ見比べてから形板を入れるようになった。
　児童の実態によって丸・三角に加えて四角を付け加えていくとよい。